

第3回釧路生活困窮者自立支援検討委員会・議事録（要約）

■開催日時

平成27年7月30日（木） 13:30～15:30

■開催場所

ビケンワークビル4F 釧路社会的企業創造協議会事務所（北大通12丁目1-14）

■実施テーマ

障がい・認知症・介護・医療サービスの現状と生活困窮者支援との連携について②

■議事

13:30 開会

13:30～13:35 釧路市生活相談支援センター暮らしごと・27年度実績について（5分）

13:35～14:10 話題提供①（35分）

14:10～14:45 話題提供②（35分）

14:45～15:20 話題提供③（35分）

15:20～15:25 生活困窮者自立支援ネットワークについて（5分）

15:25～15:30 閉会（5分）

■出席者（五十音順）

<委員>

・釧路市連合町内会・副会長	安藤 朝興 氏
・釧路市医師会看護専門学校・前副校長	伊藤 まり 氏
・東部北地域包括支援センター・所長	伊藤 靖代 氏
・釧路地区障害老人を支える会（たんぽぽの会）・前会長	岩渕 雅子 氏
・釧路市社会福祉協議会・事務局長	小野 信一 氏
・元釧路市教育委員	後藤 哲子 氏
・ハート釧路・施設長	佐々木 寛 氏
・ケアワーカーズコープわたすげ・代表	下山 裕子 氏
・NPO法人おおぞらネットワーク・理事長	千葉 美也子 氏
・釧路地区保護司会	津田 鉄子 氏
・株式会社そんぐ代表取締役、ケアセンター・所長	椿 玲子 氏
・釧路民生委員児童委員協議会・会長	土井 英昭 氏

・有限会社釧路フィッシュ・代表取締役	平野 勝幸 氏
・前釧路市消防本部消防長、民生委員	星 光二 氏
・株式会社美警・代表取締役	三上 葉月 氏
・一般社団法人立支舎・代表理事、社会保険労務士	三木 克敏 氏

<オブザーバー>

・釧路市議会議員・民生福祉常任委員会委員長	梅津 則行 氏
・釧路市議会議員・民生福祉常任委員会委員	秋田 慎一 氏
・釧路市議会議員・民生福祉常任委員会委員	工藤 正志 氏
・釧路市議会議員・民生福祉常任委員会委員	三木 均 氏
・ハローワークくしろ 次長	鎌田 英一 氏
・法テラス釧路 事務局長	島元 禎登 氏
・法テラス釧路 弁護士	阿相 裕隆 氏
・法テラス釧路 弁護士	佐藤 圭 氏
・釧路市福祉部 部長	土屋 敬視 氏
・釧路市福祉部生活福祉事務所 主幹	都嶋 和英 氏
・釧路市産業振興部商業労政課長事務取扱 次長	叶田 近永 氏
・釧路市総合政策部 都市経営課 専門員	小西 芳武 氏
・釧路市産業振興部産業推進室 主査	川田 隆司 氏
・報道各社	

<事務局>

・一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 代表理事	小和田 力
・一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 副代表	楢部 武俊
・一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 事務局長	相原 真樹
・一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 主任相談支援員	新田 摩奈美
・一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 相談支援員	佐藤 茂
・一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 相談支援員	山家 由三

計：39名

■議事録

【話題提供①】

◎医療に関わる事例紹介

- ・入退院を繰り返す知的障がいのある50代男性に関する事例紹介
- ・半身麻痺のある50代男性の退院調整・退院調整に関する事例紹介
- ・上記事例を通じたチーム支援と多職種連携の重要性の理解

◎医療業界の現状

- ・医療を取り巻く社会的背景について
- ・地域の医療機関による地域連携システムについて
- ・退院支援・退院調整について

◎意見交換

- ・看護教育の変化による新世代と旧世代の軋轢について
→現場教育が重要だが、モデルとなる看護師の不在
- ・事業主の理解不足による制度利用の阻害
→相談室・退院調整部門の整備進行による緩和
→病院の事務方の理解不足も課題
- ・日本における申請主義の弊害
→現実的な方法論でのアウトリーチの重要性
→業種や行政施策の構造的問題による困難性
- ・低賃金にならざるを得ない企業の現状
- ・制度の範囲だけではない様々な課題を理解する重要性

【話題提供②】

◎障がいに関わる事例紹介

- ・複合的な課題を抱えた世帯に対するチーム支援
- ・長期間に渡る継続支援の重要性
- ・立場の違いによる支援方針の違いと支援過程における方法の統一
- ・児童相談所や学校等、子供に対する関わりについて

◎意見交換

- ・長期間同じメンバーで関わることが、信頼関係の構築に重要
→人が変わっても同一組織の中でしっかりと引継をすることが肝要
- ・ポストモダンアプローチ
→対象者を「困った人」ではなく「困っている人」と捉える
- ・地域としての関わりや距離感について
→距離が近ければ良いわけではなく、時に離れることも必要。離れつつも「気に掛ける」ことが重要

【話題提供③】

◎生きづらさを抱えた人達への理解～協働労働の視点から～

- ・介護ボランティアに関わる事例紹介
- ・協働労働における課題を抱えた方の働き方

- ・発達障害等について、病識のない方に対するアプローチの難しさ

◎意見交換

- ・特に発達障害を抱えた方には息の長い支援が必要。長期支援が出来る体制整備も重要。
- ・就労支援における支援者・被支援者の関係性
 - 支援者の期待通りに進まない方に対する「裏切った」「折角〇〇してあげたのに」等の支援者目線が課題。支援者・被支援者といった関係性の垣根を越えた関わりが重要。
- ・障害者雇用の継続で、従業員の障がい者に対する偏見が解消された。
 - 障害者との垣根のない包摂的な目線の地域への拡大を目指したい

■用語解説

地域連携システム≡地域医療連携

地域の医療機関が自らの施設の機能や規模、特色、地域の医療の状況に応じて医療の機能分担や専門化を進め、例えば健診機関と診療所、診療所と病院、健診機関と病院、病院と病院など各医療機関が相互に円滑な連携を図り、其々の医療機関の有する機能を有効かつ迅速に活用することにより、受診者が其々の地域で継続性のある適切な医療が受けることが出来るようにするもの。

ポストモダンアプローチ ※ソーシャルワークにおけるポストモダンアプローチについて

①大枠の概念

対象者の障害を「異常」と捉え、「絶対的な社会」に対する「適応」を目指す「医学モデル」「病理・欠損モデル」等に対し、対象者の障害を「個性」と捉え、個性の発揮を阻害する或いは発揮された個性を排除する社会構成こそが課題であるとする「社会構成モデル」が提唱されてきた。

②代表的な用語

(1) エンパワメント

社会的に差別されたり権利を奪われたりして自立を妨げられていた人々が、その自立する力を取り戻すプロセスもしくはその結果。

(2) ストレングスモデル

対象者の弱み（ウィークネス）にのみ注目するのではなく、対象者の強み（ストレングス）に注目し、その強みを活かそうという考え方。ここでの強みとは本人の内面的・能力的側面だけでなく、社会関係資本等、本人を取り巻く環境も含めたもの。エンパワメントアプローチにおける有効な視点であるとされている。

(3) レジリエンス

「精神的回復力」「耐久力」「復元力」等に訳される。例えば同じ障害であってもレジリエンスの差によって困難度合に違いがあり、レジリエンスの発揮を目指すアプローチの重要性が注目されている。

以上